

N0. 124 かぎ針編みによる子供服の制作

井上研究室（アパレル） A21AB041 小山恵梨奈

1. はじめに

かぎ針編みとは、棒の先が鍵になっている針を使って編むことで、針一本でどこででも手軽に編む事ができ、場所も取らないので、多くの人から親しまれている技法である [1]。編み地は全般に伸縮性が少なく、棒針編みよりも厚地のしっかりしたものに編み上がる。かぎ針には、レース針と毛糸用のかぎ針の二種類がある。材質は金属、竹、象牙、プラスチックといろいろあって、かぎは片方についているものと、両端についているものがあり、両端についているものはそれぞれの号数が違う。針を選ぶときは、かぎの先端がとがりすぎず、適當な丸みがあって、軽くてすべりのいいものを選ぶことが大切である [1]。

今回の実験では手軽にたくさんの種類を編めるかぎ針編みを使用して子供服の制作を行うことを目的とする。制作を行うにあたって、基本となる細編み、長編みに加え、さまざまな編み模様を 6 種類作成し、模様による相違を検討する。本実験では曲げ特性と接触冷温感を調べ、子供服に合った編み模様を選定し制作を行うことにした。

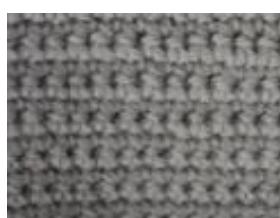
2. 実験方法

2-1 試料

実験の試料には、毛 100% (1 玉 40g 120m) の毛糸「リッチモア パーセント No. 124」と 6/0 号のかぎ針を使用し、8 種類の編み模様を 15×15 のゲージに揃えて作成した。図 1 に示した 8 種類の編み方は①細編み②長編み③若草④松かげ⑤せせらぎ⑥鎖 5 目のネット編み⑦あやめ⑧鎖 2 目の方眼編みである。作成した 8 種類の試料の平面重を表 1 に試料の写真を図 1 に示した。

表 1 試料の平面重

試料	平面重 (mg/cm ²)
①	81.101
②	59.499
③	61.159
④	54.580
⑤	45.914
⑥	39.637
⑦	52.143
⑧	34.394



① 細編み



② 長編み



③ 若草



④ 松かげ



⑤ せせらぎ



⑥ 鎖 5 目のネット編み



⑦ あやめ



⑧ 鎖 2 目の方眼編み

図 1 作成した試料の写真

2-2 測定方法

KES-FB2 を使用し曲げ測定を行い曲げ剛性 B と曲げヒステリシス 2HB を求めた。また、接触冷温感テスターを使用し、各試料 3 回ずつ接触冷温感 q_{max} の測定を行い、平均値を求めた。

3. 結果及び考察

図 2 に曲げ剛性のたての結果を示す。参考に過去の結果も示している。図 3 は曲げ剛性よこの今回の結果と過去の結果を比較したもの、図 4 は曲げ剛性たてよこ平均の今回の結果と過去の結果を比較したものである。これら 3 つの表を見ると、数は少ないが編み方の種類によって大きさが異なることと同じ編み方であれば編み手が異なっても曲げ剛性、曲げヒステリシスともに同程度の値になることが認められる。ただし細編みに差が見られるのは、編み目の目数が多いため曲げ剛性、曲げヒステリシスともに数値が大きくなっていると考える。また、せせらぎは、ひとつの編み模様に隙間が大きいところと小さいところがあるため測る場所によって数値が大きく変わると考えられる。

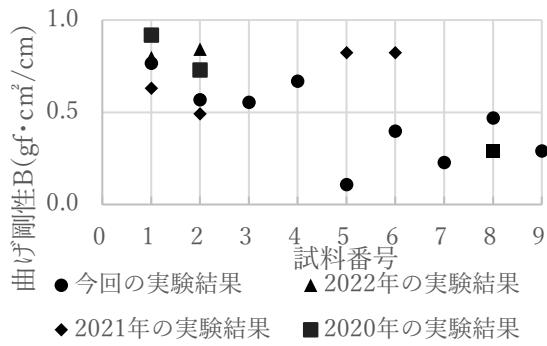


図2 各試料布の曲げ剛性B たて

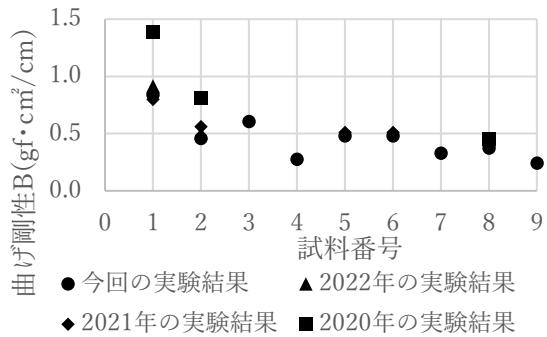


図3 各試料布の曲げ剛性B よこ

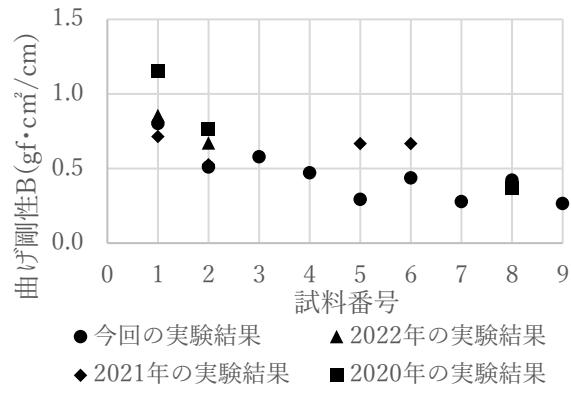


図4 各試料布の曲げ剛性B たてよこ平均

図5には接触冷温感の実験結果と平面重の関係を比較したものと示す。平面重が大きいと接触冷温感が大きく触ったときに冷たく感じることがわかった。松かげとあやめの数値が近いのは編み模様に隙間の大きいところと小さいところの差が大きいため測定位置による違いがあるのではないかと考える。

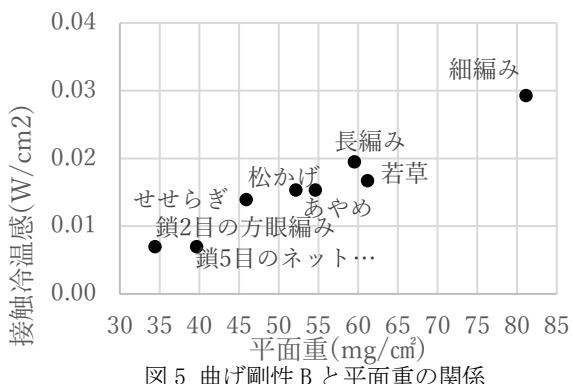


図5 曲げ剛性Bと平面重の関係

4. 制作

今回の実験結果から、曲げ剛性、曲げヒステリシス、接触冷温感は全て編み模様の隙間の多さが数値に関係することが分かった。曲げ剛性、接触冷温感共に中間的で編み時の隙間も着用する際に空き過ぎていない編み模様である松かげを用いて、春秋に着用出来る子供用ワンピースを制作することにした。ワンピースの制作は試料作成時に使用した糸と同様、毛100% (1玉40g120m) の毛糸「リッチモア パーセントNo.126」と6/0号のかぎ針を使用した。ワンピースの型紙は参考文献 [2] を参考にした。工夫した点はかぎ針編みの部分は少し隙間がある模様のため裏地をつけ、毛糸の特性である伸縮性を活かすためニット地の裏地を使用した。また子供が着脱しやすいように後ろに空きを作った。肩紐はかぎ針編みで作成してしまうと重さに耐えられないと考え、伸縮性のない布を使用した。また、身長に合わせて、長さを調整できるよう結ぶ形にした。制作したワンピースを図6に示す。



図6 作成したワンピースの写真

5. まとめ

今回の実験結果から、同じ編み模様では編む人が違っても曲げ特性に大きく差がない事がわかった。また、曲げ特性、接触冷温感共に編み模様の隙間の多さが大きく関係していることも分かった。また、編み模様の種類により物性や外観が変化するため、目的のデザインにより、模様を選択する必要があるということが分かった。

6. 参考文献

- [1] 「編み物全書 手編み・機械編みの基礎から新しいテクニックまで」文化出版局/城川美枝子著 1974年/133ページ
- [2] 「少女のスマッキングワンピース」復刊ドットコム 藤田弥生著